
モルゴーア・クアルテット Morgaua Quartet

モルゴーア・クアルテット MORGAUA QUARTET / String Quartet MORGAUA QUARTET (モルゴーア・クアルテット) は、ショスタコーヴィチの残した 15 曲の弦楽四重奏曲を演奏するため、1992 年秋に結成された弦楽四重奏団。

翌'93 年 6 月に第 1 回定期演奏会を開始。2001 年 1 月の第 14 回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全 15 曲を完奏。

同年 4 月、第 2 ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。

'01 年 11 月からは「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催公演で《モルゴーア・クアルテット ショスタコーヴィチ・シリーズ》を 5 回に亘って行ない、'03 年 12 月に 2 度目の完奏。

ショスタコーヴィチ没後 40 年 (2015) から生誕 110 年 (2016) をつなぐ「ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全 15 曲演奏会」を'15 年大晦日から'16 年元旦にかけて「横浜みなとみらいホール小ホール」で開催。

一晩で全曲演奏するという矚目のプログラムで多くの聴衆を集め、4 度目の完奏。

'12 年 6 月と'14 年 5 月、そして'17 年 3 月に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプロGRESSIV・ロック・アルバム《21 世紀の精神正常者たち》《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としての高い評価を受ける。

1998 年 1 月第 10 回「村松賞」、2011 年 5 月「2010 年度アリオン賞」、2016 年 9 月「第 14 回佐川吉男音楽賞 奨励賞」、2017 年 9 月「第 47 回 JXTG 音楽賞 洋楽部門本賞」、2018 年 6 月「第 28 回みんゆう県民大賞 芸術文化賞」を受賞。

モルゴーア・クアルテットの斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は、常に話題と熱狂を呼んでいる。

「モルゴーア」は、エスペラント語 (morgaŭa = 明日の) に原意を持つ。

- 第 1 ヴァイオリン : 荒井 英治 (元東京フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスター)
- 第 2 ヴァイオリン : 戸澤 哲夫 (東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター)
- ヴィオラ : 小野富士 (元 NHK 交響楽団次席ヴィオラ奏者)
- チェロ : 藤森 亮一 (NHK 交響楽団首席チェロ奏者)

(令和 3 年 8 月現在・転載禁止)